

広報

Nakatsue Village NEWS
Nakatsue Village NEWS
Nakatsue Village NEWS

98 / 12
No.388

なかつえ



▲小学生による合唱（ふるさとまつりより）

なかつえの人口と世帯

（11月末現在）

人口	1,422人（- 4）
男	689人（± 0）
女	733人（- 4）
世帯数	485戸（- 2）

発行／中津江村

編集／総務課企画情報係

もくじ

② 第18回中津江村ふるさとまつり
功労者表彰

③ 川野富子さんが県知事表彰
つえエーピー、大分県一村一品21推進顕彰団体に

④ 郡内一周駅伝 4位でゴール
公民館対抗ミニバレーボール大会
第2回栃原地区運動会

⑤ 酒呑童子もみじまつり
「ふれあい祖父母学級」開催

ヒゴタイを定植

⑥ ヨーロッパ研修を終えて

— 中原一彦 —

⑦ 「心にしみる いい話」

津江中学校に「心の教室相談員」を設置

⑧ ⑨ お知らせ・御寄付お礼・慶弔

⑩ 麻生さん、岩本さん 介護資格専門員試験に合格

ホームステイにご協力ください

第18回

中津江村ふるさとまつり

今年最後のイベント大いに盛り上がる

十一月二十二日、中津江村民ホールで今年最後のイベントとなる中津江村ふるさとまつりが開催されました。

まつりはホール内での功勞者表彰等が行なわれた後、メイン会場を野外特設ステージに移し、保育園児、小学生、中学生のすばらしい合唱、合奏が発表されました。

その後、芸能発表会が行なわれ、公民館教室で練習を重ねた日本舞踊や民謡の数々が披露され、演題に合わせた衣装も観衆の目を楽しませていました。

また、ホールのエントランスに展示された書道、絵画、パッチワーク、生花、写真も秀作ばかりで作品に見入る人の姿も多かったようです。

まつりのほとんどが野外会場での開催であり、開始直後の雨は集まった人を心配させたようでしたが、短時間で雨も上がり、ふるさとまつり恒例の農産物直売会や屋台村も大盛況となった他、福引きを行なう順番待ちの列がしばらく続くなど、会場内には多くの人が詰め掛けていました。



▲踊りを披露する子供達



▲農産物直売会



▲屋台村も大忙し

功勞者表彰の受賞 おめでとうございます



功勞者表彰受賞者

- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| 岩 鈞 正 登 様
(永年勤続により) | 高 岡 貞 子 様
(永年勤続により) |
| 三 筈 安 雄 様
(永年勤続により) | 永 瀬 豊 子 様
(永年勤続により) |
| 小 野 勇 様
(永年勤続により) | 猪 野 王 生 様
(福祉貢献により) |
| 松 原 夕 子 様
(永年勤続により) | 平 野 一 人 様
(福祉貢献により) |
| 矢 野 香 代 子 様
(永年勤続により) | 川 津 三 千 尋 様
(自治功勞により) |
| 坂 井 達 弥 様
(永年勤続により) | 水 野 英 男 様
(自治功勞により) |
| 三 筈 勇 様
(永年勤続により) | 平 和 ニ ッ ト 株 式 会 社 様
(産業振興により) |

農村女性の活動育成に貢献

川野富子さんが

県知事表彰を受賞

十一月三日・文化の日、県内各分野の功績者に対し、大分県知事より県知事表彰が行なわれました。

中津江村からは川野富子さんが農村部門での表彰を受けました。

川野さんは三十年にわたり農村女性活動の育成発展に貢献され、大分県生活改善連絡協議会の副会長も歴任されました。

また、最近では中津江村女性のつどいの開催にもご尽力されるなど、卓越したリーダーシップと実行力を発揮されています。



つえエーピー、大分県一村一品推進顕彰団体に

十一月二十一日、第二十二回県民の日・豊の国ふるさとまつりにおいて、株式会社つえエーピーが平成十年度 大分県一村一品 推進顕彰団体の表彰（努力賞）を受けました。

平成四年九月に設立されたつえエーピーは設立の目的でもあった津江地方の特産物を加工食品として高付加価値化、中でもワサビの加工食品は市場での高い評価を受け、津江地方をワサビの一大生産地として広めました。

その結果、業績は順調に伸び、平成九年度には販売額が一億円を突破するなど、著しい躍進を果たした功績が評価されたものです。



柚子の特産品化

つえエーピーは現在、新しい商品として柚子の製造・販売に取り組んでいます。

柚子が大豊作となった今年には上津江村、中津江村の農家から出荷された殆どの柚子をつえエーピーが買い付け、その量は二十tを越えました。

柚子は昭和四十年代、転作作物として奨励され本村でも多くの農家が栽培している作物でした。

また、津江地方は寒暖の差が大きいため、良質の柚子を生産する地域でもありました。

しかし、果実のままでの用途が限られたため、市場への出荷量は伸びず、生産農家が主に自家用の酢を搾汁するだけの消費となり、余った果実は廃棄されている状態でした。

現在、つえエーピーでは柚子の表皮を製菓や柚子胡椒の材料に、搾汁された酢を調味料などの材料にと、品質に応じた加工が行なわれています。

香りがよく無農薬の柚子を使った製品は市場の評価も高く需要も大きいようです。

現在、各地で特産品の開発が行われていますが市場での評価を得ているものは少ないようです。

柚子が新たな特産品への足掛かりを築いた要因は、つえエーピーが長い間、ワサビ、こんにやくの加工製品販売に際し、何も無い状態から作り上げた流通体制の成果であったとも言えるのではないのでしょうか。



つえエーピーでの柚子の加工

郡内一周駅伝

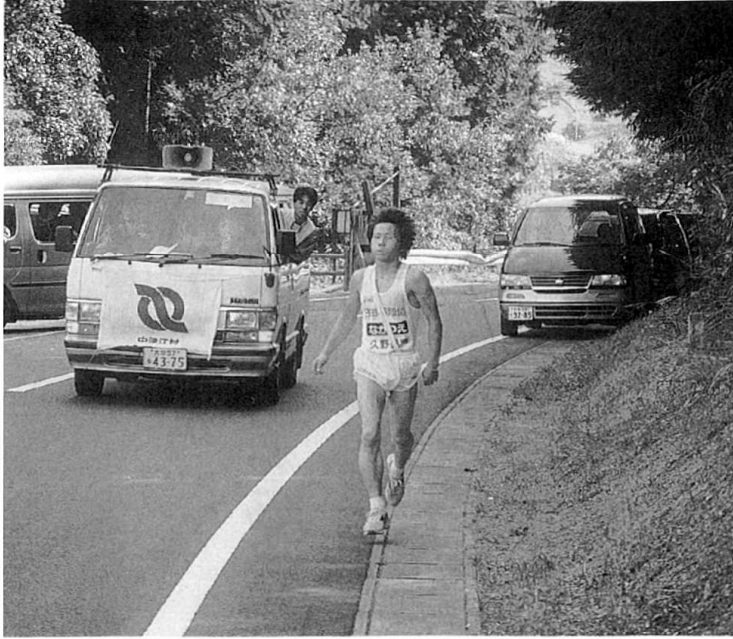
健闘及ばず4位でゴール

十一月八日、第四二回 日田郡町村対抗駅伝大会が開催され、八区・三七・二kmにわたり熱戦が繰り広げられました。

昨年の最下位を返上すべく奮闘した中津江チームは二区で先頭に立つなど、善戦しましたが最終的には四位でゴールしました。

しかし、記録は昨年のタイムを十一分余り縮める躍進一位を果たし、各選手の頑張りが十分に現れた結果となりました。

選手皆さん本当にお疲れ様でした。来年も頑張ってください。



公民館対抗 ミニバレーボール大会

—21チーム・353名が参加—

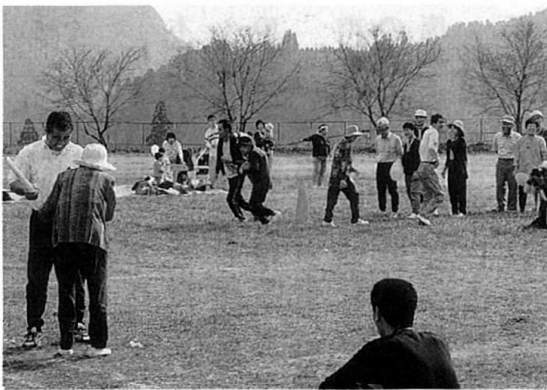
十一月十日から十三日までの四日間、B&G海洋センターで第八回自治公民館対抗ミニバレーボール大会が開催されました。

この大会は公民館単位でチームを編成することから、日頃、ミニバレーをしない男性、高齢者の方も参加それでもチームができないところは小学生も選手として参加してもらうなど、この大会ならではのチーム編成となっていました。

事前に練習したチームもあったようですが、随所に珍プレー、好プレーが見られ、終止和やかな雰囲気大会が進行していました。

優勝チーム（開催日ごと）は次のとおりです。

- 十一月十日 川辺A
- 十一月十一日 ノースサイド
- 十一月十二日 中川内
- 十一月十三日 二又



第2回

栃原地区 運動会を開催



十一月一日、津江中学校グラウンドで栃原地区の運動会が開催されました。

この日は、絶好の運動会日和となりましたが、村内での行事が重なり、参加者は若干少ないようでした。

しかし、ほとんどの競技で参加者全員が参加、運動会を大いに楽しんだようです。

同じ地域に住んでいる人同士でも、仕事や年代の違いなどで、会話の機会は少なくなっています。

この運動会は栃原地区住民の方々の貴重な交流の場となったのではないのでしょうか。

清流を舞台に地域住民が交流

酒呑童子

もみじまつり



十一月一日、市ノ瀬公園で酒呑童子もみじまつりが開催されました。

温暖な気候となった今年、紅葉をはじめながらの開催と見ながらの開催とはなりましたが、村内各地から多くの人が集まり、やまめのつのみ取りやゲートボールを楽しんだり、市ノ瀬地区の方々を用意した、だご汁、やまめの塩焼き、かつぼ酒を味わいながら地域間の交流を深めました。

また、行楽シーズンでもあったことから、観光客も立ち寄り、地元で作った農産物や工芸品を買い求める人も多かったようです。



「ふれあい
祖父母学級」
を開催

十一月五日、なかつえ小学校で「ふれあい祖父母学級」が開催されました。

生徒の祖父母、四十人の協力で行なわれたこの行事は生徒達が祖父母から竹馬、竹とんぼ、お萩の作り方を習うもので、男女関係なく三つのグループに分かれて、それぞれの作り方を教えてもらいました。



特に竹馬、竹とんぼ作りの会場となった体育館では使い馴れない刃物を持つての学習に、最初生徒達は戸惑いを見せていました。

生徒達は戸惑いを見せていましたが、お祖父さん達の手際良い作業に目を凝らしながら、少しずつ作る要領を覚えていったようです。

生徒達は自分の竹馬や竹とんぼが完成するとさっそく嬉しそうに出来栄を試し、体育館中に歓声を響かせていました。



◀ヒゴタイの花



◀定植する会員の皆さん

ヒゴタイを定植

中津江村農林活性化推進協議会

十月三十一日、中津江村農林活性化推進協議会の方々や役場産業課職員でヒゴタイの定植を行ないました。

定植が行なわれたのは鯛生金山「花の広場」で、本協議会会員でもある坂井正満氏よりいただいた三百本の苗を約一時間半ほどで植えました。

ヒゴタイはキク科の植物でアザミに良く似た山野草ですが、季節感を表す花として、市場では一本五十円から百二十円で取引されています。

一度定植すれば五年間は花が咲き、特別な施設も必要としないことから遊休農地でも栽培が可能であり、本村でも有望な品種と思われる。

現在、坂井正満氏が石場の転作田で栽培を行なっているのをはじめ、村でも試験栽培を行なっています。

今回定植されたヒゴタイも来年の八月中旬には開花し、球状で紫色に咲き誇った花々が訪れた人の目を楽しませそうです。

「ふるさとの農業を拓くリーダー育成事業」

ヨーロッパ研修を終えて

中原 一彦

我々研修生十一名は、やや緊張した面持ちで最初の訪問国であるベルギーのブリュッセルに到着しました。ベルギーは日本の一割にも満たない小さな国ですが、石畳の道や大聖堂、中世の古い町並みや花で飾られた公園などが多く、大変奇麗な国だという印象を受けました。

次の日、EU（欧州委員会）を訪問した我々は、EUの組織について様々な説明を受けました。

現在、EUには十五ヶ国が加盟しており、生産性の向上や農業所得の増大・大規模農業の推進を目的とした農業政策が行なわれてきました。

しかし、結果的には農産物の生産過剰を招き、政府は農産物買い取りに莫大な経費を要し、その財源の五十%を国民からの税金で補なっています。

また、ヨーロッパの農家は五十%が兼業農家で、日本と同様に後継者不足の問題を抱えているそうです。

次の訪問地カールスルーエ市では、クニユーベル氏の有機野菜の直売店と農場を見学しました。十ヘクタールの農場ではセロリ・人参・大根・レタス等の野菜が作られています。

午後から見学したエルツコン出荷組合では、地区の農家

で有機栽培された小麦をこの地区のパン工場に共同出荷し、パンにしてこの地区で販売することによって流通コストの削減や安全性を確保、運営面では組合員に平等のメリットがあるよう考えられた組織でした。

また、マシーネンリングという農業機械の共同利用組織は、農家におけるホームヘルパー的役割を果たしており、高齢化や若者の農業離れで困難となった農作業を代行するものでした。マシーネンリングの見学先となったブラウンガー氏の場合、十年前にトラクターと刈り込み機械を使っていた始めた事業が、今では十数台の大型機械と三十名の従業員による組織にまで成長しているそうです。

このような組織は、農家が生き残っていく上で大変重要なものではないかと思いましたが、続いて訪れたスイスでは、やはり景色が大変奇麗でした。どの家の窓にもゼラニウムの花が飾られ、空き地には手入れの行き届いた花壇が造られるなど、絵はがきで見る景色そのものでした。

我々は、山岳農家のスターク氏の家を訪問しました。

スターク氏は標高千mの高地に二十二ヘクタールの牧草地を持ち、牛二十二頭、豚十頭を飼育しています。牛舎の床は乾燥しており、とても清潔で案内された我々は大変驚きました。この地方の農家は牛の糞尿を牧草地に散布することで処理しますが、飼育する牛の数は自分の牧草地で処理できる量に比例した数しか飼育しておらず、飼料は牧草だけを使い、農耕飼料や輸入飼料は一切使用していないということでした。

また、リサイクルについては、家庭から出るペットボトルや空き瓶なども完全に分別されています。さらに地域によっては水を使う時間帯も制限されていたり、掃除機をかけてはいけない曜日が決められているなど、環境問題には地域をあげての真剣な取り組みが行なわれていました。

最後の訪問先となったフランスではパリ近郊でグリシエ氏の農場を案内してもらいました。グリシエ氏は一九八五年から十ヘクタールの土地に約二十種類以上の野菜を栽培しています。収穫された作物の五十%は大型小売店に出荷

し、残りは朝市で直接販売して、消費者に安くて新鮮な野菜を供給しています。また、大型小売店への出荷では年間出荷量などを決めた契約も無いいため、日本の農業に見られる流通コストの増大や生産者への負担は無いようでした。

スイス同様パリでも環境問題に対する意識は高く、大きな分別ゴミ箱が置かれたり、我々が乗ったバスでも目的地に到着するとすぐにエンジンが止められ、出発するときには皆が乗り込んで座席に座るまでエンジンがかけれないなど、個人の認識においても日本とは比較にならない高い次元での浸透を見ることができました。

今回、この研修に参加して感じたことは、ヨーロッパの人々が家や農機具でも自分で修理して大事に使っているという事、自然と環境を大切にしている事、観光では決して体験できない農家の人々の生活とふれあいを通して、心の暖かさを感じることができました。

最後に、今回の研修でお世話になった関係機関の方々に感謝いたします。



「心」をみる いっしょ

今年十月、一冊の本がなかつえ小学校に送られてきました。この本は「心にしみる いい話」という本で鹿児島市にある南日本新聞社が公募し、多数の体験談の中から選りすぐった七十一編の作品を収録したものでした。

本を送ったのは、鹿児島市に住む城内彰子さんと、この本の中に収録された「手づくりのカイロ」という題で「人の情け」についての体験談を綴られた方でした。

同封された手紙には、この作品を書いた経緯、小学三年生までを過ごした鯛生との関わりなどが書かれていました。

「手づくりのカイロ」を読むとあたたかい人の情けに感動することはもちろんですが、詳細に書かれた通学の様子など、城内さんの記憶に金山繁栄時の鯛生での生活が深く刻まれていることを感じ取れるものでした。

「手づくりのカイロ」

城内 彰子

幼い頃の思い出にいつも出てくるお兄ちゃんがいる。父の勤務の都合で大分県の鯛生金山の社宅に住んでいたこと。鉱山は繁栄をきわめ

社宅もにぎやかだった。

昭和九年、小学校に入学して初めての冬だった。高地なので雪が多く、積雪は、子供の私の胸までおよぶことも珍しくない。学校まで三キロ近い道のりは、除雪してもすぐ道を覆ってしまう。

そんなある日、「寒いから学校に行きたくないの」と私。すると「学校に行かなくては駄目よ。隣のお兄ちゃんもお姉ちゃんも学校に行くでしょう。ほら、ランドセルを背負って」。病弱な母が病床から綿入れを羽織って玄関まで出てきて私に声をかけた。

そのとき、「彰ちゃん学校に行こう」と誘ってくれたのは、社宅に住む上級生であった。母は「行きたくないって言っているの、連れて行ってね」と弱々しい声で頼んでいた。仕方なく家を出た私は、黙って上級生の後ろに従って歩きだした。

遠い道のりのせいか、上級

生が下級生をかばって集団で登校するようになっていたらしく、私たちは天気の良い日も雨の日も五、六人まとまって登校した。社宅の軒並みを通り抜けると、道は雪で埋め尽くされていた。社宅の前はそれぞれ除雪していたのだが、家並みを離れると道路は凍てつき、時折すべって恐ろしかった。

寒さで体全体がこごえそうになり、母の手編みの手袋も冷たくなっていた。長靴の中まで雪が入ってきた。私は、冷たい。寒い」と泣きながらしやがみこんでしまった。すると、上級生のお兄ちゃんが、ズボンのポケットから新聞紙に包んだ塊を取り出し、私の手に握らせてくれた。その塊の暖かいこと。両手でしっかりと握りしめ上級生の後を黙って歩いて行った。

一年生は私一人で、ほかは上級生ばかりなので、曲がりくねった道も細い石橋も上手にさつきと渡って行く。橋のたもとにじつと立っている私に「彰ちゃん手を出してごらん」と差し出した手のぬくもりが、下級生を思う心の優しさに思えてとてもうれしかった。

せまい上り坂になると、お兄ちゃんは、自分のカバンを

友だちに持たせて私を背負ってくれ、広い道に出ると下ろして手を引いてくれた。その背中何とも頼もしかったことか。まるで父親に背負ってもらっているようだった。

津江中学校に『心の教室相談員』を設置

十一月一日より津江中学校に『心の相談員』を設置しました。

相談員には青雲寮の寮母でもある小関千秋さんをお願いをし、引き受けていた。たくさんとなりました。

この制度は「中学生が誰にも相談できずに一人で悩んでいる事柄や日頃のストレスを解消するための相談員を設け、子供たちと一緒に考え、悩み、話し相手になろう」という趣旨のもと始められたものです。寮母として生徒達からも慕われている小関さんは最高の相談相手ではないかと思いません。



平成11年度自治医科大学 入学者募集について

自治医科大学では、へき地医療に意欲をもって取り組もうとする医師志望者を募集します。

●募集概要

受験資格

高等学校を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者、又はこれと同等以上の学力があると認められる者。

願書受付期間

平成11年1月4日から
平成11年1月22日まで

試験日

第1次試験
平成11年1月28日
平成11年1月29日

願書の申込み及び

問い合わせ先

大分市大手町3丁目1番1号
大分県福祉保健部医務薬事課
地域医療係

電話 097-536-1111

(内線2646)

中小企業支援機関が、インターネット による経営、技術相談サービスを開始

厳しい経営環境下で奮闘されている中小企業を応援するために、県内の各中小企業支援機関が、相互連携してインターネットによる経営・技術相談サービスを開始しました。

中小企業のみなさまからの経営、技術等に関する様々なお問い合わせを、大分県地域経済情報センターの「コロンブス」(大分県中小企業地域情報ネットワークシステム)で受付し、各機関の担当者、専門家が電子メールで回答いたします。

ぜひご利用ください。

インターネットの相談窓口

<http://www.columbus.or.jp>

問い合わせ先

社団法人大分県地域経済情報センター中小企業情報課

電話 097-533-0220

FAX 097-538-8407

〒870-0037

大分市東春日町17-20

ソフトパークセンタービル

中小企業設備近代化資金 募集のお知らせ

大分県では、中小企業の近代化を促進するため、新規設備を導入する中小企業に対し、資金の貸付けを行なっています。長期無利子と非常に有利な制度となっていますので、是非ご利用ください。

●制度の概要

貸付率

対象設備購入価格の

1/2以内

限度額

50～4,000万円

貸付利率

無利子

償還期間

5年以内

(1年据置の4年償還)

※法律に定める一部特定設備については7年以内

※特定公害防止設備については12年以内



〔御寄付お礼〕

■社会福祉協議会へ

〈見舞返し〉

児塔 民和 様

三〇、〇〇〇円

〈香典返し〉

中元 認 様

三〇、〇〇〇円

安岡 安子 様

五〇、〇〇〇円

渡邊 友明 様

七〇、〇〇〇円

■栃原公民館へ

〈香典返し〉

中元 認 様

二〇、〇〇〇円

安岡 安子 様

二〇、〇〇〇円

■市ノ瀬公民館へ

〈一般寄付〉

齋藤 和彦 様

三〇、〇〇〇円

■山本公民館へ

〈見舞返し〉

児塔 民和 様

二〇、〇〇〇円

■丸蔵老人クラブへ

〈見舞返し〉

児塔 民和 様

二〇、〇〇〇円

お知らせ

「県病健康教室」の開催

大分県立病院では、毎月1回「県病健康教室」を開催しています。

事前の予約など必要なく、どなたでも受講できますので、是非ご利用ください。

開催日	演 題
12月15日	呼吸不全に対する最新の治療
1月19日	日帰り全身麻酔手術について
2月16日	外科の大きな手術と小さな手術
3月16日	脊椎外科の進歩
4月20日	最近注目されている心臓血管手術
5月18日	レーザーを用いた初期子宮頸癌の治療

問い合わせ先

大分県立病院
電話 097-546-7117



国民年金完納者に「くにさき望海苑」の宿泊券をプレゼント

大分県国民年金課では平成10年4月から9月分までの保険料を納めた方の中から抽選で国民年金健康保養センター「くにさき望海苑」のペア宿泊券 20名、記念品 100名をプレゼントします。

応募方法

官製はがきに

- ・国民年金手帳の記号番号
- ・郵便番号、住所
- ・氏名
- ・年齢、生別
- ・電話番号

を書いて郵送してください。

宛先

〒877-8501
大分市大手町3丁目1番1号
大分県福祉保険部国民年金課
「国民年金完納者
プレゼント」係

締切

平成10年12月15日
(当日消印有効)



チェックよし 今年もクリアー最低賃金

大分県の最低賃金が変わりました。

日 額 4,713円
時間額 591円

(平成10年10月1日より)

特定の産業には産業別最低賃金が定められています。

最低賃金に関する問い合わせ先

日田労働基準監督署
電話 22-6191

『今、エイズを考えよう』

12月1日は世界エイズデーです。

皆さんもエイズについて学んでみませんか。

日時

12月25日 13:00~16:30

場所

日田市中央公民館

講題

「今、エイズを考えよう」

講師

西村クリニック院長

西村 有史先生

問い合わせ先

日田玖珠保健所
保健指導課第2係
電話 23-3133

■特別養護老人ホーム

「敬天荘」へ

〈香典返し〉

安岡 安子 様

三〇、〇〇〇円

■鯛生老人クラブへ

〈一般寄付〉

湯村 龍延 様

二〇、〇〇〇円

■川辺老人クラブへ

〈香典返し〉

安岡 安子 様

二〇、〇〇〇円

■野田自治会へ

〈香典返し〉

渡邊 友明 様

三〇、〇〇〇円

〔慶 弔〕

○お誕生おめでとう

下 切 赤星美由希ちゃん

(幸隆・雅美)

●お悔やみ申しあげます

栃原三班 安岡 登 様
田ノ口 渡邊ことえ 様

麻生富美子さん・岩本はるみさん 介護資格専門員資格試験に合格

現在、平成十二年度より施行される介護保健制度の実施に向けて各自治体や社会福祉協議会では様々な準備がなされていきます。

中でも介護認定者のケアプランを作成する介護資格専門員の確保は重要な課題となっています。

そうした中、九月二十日に行なわれた第一回目の介護資

格専門員資格試験に村内の麻生富美子さんと岩本はるみさんが見事合格されました。

介護資格専門員の受験資格には厳しい制約があり、誰もが受験できるものではなく、

麻生さん、岩本さんは村内でも数少ない受験資格者でした。二人は中津江村社会福祉協

議会に勤務していることもあり、介護資格専門員が介護保健実施後の社会福祉協議会の業務に大きな影響を与えることを深く認識していました。

受験勉強を行なった四月から試験前日までの期間は、仕事や家事との両立に加え、精神的にもかなりの重圧を感じる日々だったようです。

合格という結果を残し、二人ともほっとした様子でしたが、介護資格専門員の資格取得に必要な研修も控えていることから手放しでは喜べないようでした。



▶右より 麻生さん 岩本さん

「農業所得標準」を用いて所得を計算される納税者の方へ

所得税・住民税の申告については、原則として収支計算により行なうものですが、やむを得ない事情により農業所得標準を使用される方は、以下の点にご注意ください。下記の項目の費用は、平成10年分の所得の確定申告から新たに標準外経費となります。これに伴い、申告時に（ ）内の領収書等関係書類の提示が必要となります。

1、租税効果

農業の用に供する建物、車輛等の原価消却資産に係る固定資産税、自動車税、軽自動車税、自動車重量税、(納付時に受領する領収書等)

2、原価消却費

農業の用に供する耐用年数1年以上又は取得価格若しくは製作20万円以上の減価償却資産の取得価格等を基に計算された減価償却費(取得価格等及び取得年月日を示す書類等)

3、調整費

自家、委託を問わず、もみの乾燥、もみすり等の乾燥調整に係る費用(乾燥調整に要した費用の領収書等)

4、借入金利子

農業の用に供する施設・機械等の取得に係る借入金に対する支払利子(その年に支払った借入金利子を示す書類等)

なお、その他の標準外経費についても、従来どおり、領収書等関係書類の提示が必要です。

問い合わせ先 役場 税務課 電話 54-3111

ホームステイ にご協力ください



一月十五日に行なわれる新春走ろう・歩こう会に大分県内の国際交流員十名を招待したいと考えています。

また、国際交流のよい機会ですので村内の方に交流員のホームステイ(ボランティア)で、させて頂いていただけないかと考えました。

ホームステイでお願いすることは次ぎのとおりです。

- ・ 一月十四日の宿泊と食事
- ・ 一月十五日、走ろう・歩こう会会場への案内
- ・ 一軒の家に一人がホームステイ

日本語が堪能な交流員ばかりです村民の方のご協力をお願いいたします。

連絡先

中津江村役場 総務課

国際交流員 ジョン・マロン

電話 五四一三一一

※手配の関係上、十二月二十八日までにご連絡をお願いします。